

読書アンケートの分析

- ① 本を読むことが好きですかとの問いに、年齢が上がるごとに好きの割合が低下している。

(単位:%)

	とても好き	まあまあ好き	合計
幼稚園	32	55	87
保育所	28	46	74
小学校	29	39	68
中学校	16	30	46

- ② 幼稚園、保育所とも9割の保護者が読み聞かせを行っている。

- ③ 1ヶ月に何冊本を読みますかとの問いに、小学生では3～5冊が最も多く、10冊以上読む児童も20%いるが、中学生になると1～2冊が最も多く読まない生徒が61%と小学生の13%から急上昇している。

	3～5冊	1～2冊	10冊以上	読まない
小学校	30	25	20	13
中学校	11	23	3	61

- ④ 本を読まない理由としては、小学生ではゲームやテレビが楽しいが最も多く17%となっており、次に宿題や勉強があるが15%となっている。中学生ではクラブ活動が13%と最も多く、次に塾や習い事の12%となっている。本を読むことが嫌い、つまらないは小学生、中学生とも約20%という結果であった。

	ゲームやテレビが楽しい	宿題や勉強がある	クラブ活動	塾や習い事がある	本を読むことが嫌い	つまらない
小学生	17	15		10	9	9
中学生	11	8	13	12	8	9

- ⑤ どこで本を読むことが多いですかの問いでは、小学生では学校の図書室が33%で最も多く、次に家が30%となっており、中学生では家が58%と最も多く次に図書館が14%となっている。

	学校の図書室	家	教室	図書館
小学生	33	30	20	9
中学生	8	58	5	14

- ⑥ 学校の図書室で本を借りますかとの問いでは、小学生では80%の児童が借りているのに対し、中学生では5%の生徒しか本を借りていない。これは、本を読まない生徒が6割いることも影響していることが考えられる。

- ⑦ 借りない理由としては、小学生、中学生とも読みたい本がないからが一番多くなっている。

- ⑧ 町の図書館に行きますかとの問いには、小学生は6割の児童が行く又はたまに行くと回答しており、中学生は5割の生徒が行く又はたまに行くと回答しておりそれほど差はみられなかった。

- ⑨ どんな時に行きますかとの問いでは、小学生では読みたい本を借りるときが一番多く、中学生では宿題などの調べものをするときが一番多くなっており利用の仕方に違いがでていることがわかる。

- ⑩ 町の図書館になぜ行かないのかとの問いでは、小学生では行く時間がないからが22%、次に学校で借りるからが14%の順となっており、中学生では読みたい本がないからが29%と最も多く、次に行く時間がないからの22%となっている。

読書アンケートの分析

- ⑪ 家族の方は本を読みますかとの問いでは、小学生ではよく読む又は読むが42%となっており、中学生ではよく読む又は読むが30%と中学生の子どもをもつ家庭では小学生の児童を持つ家庭と比べ12%低い結果となっている。
- ⑫ 家族の方と本のお話をしますかとの問いでは、小学生はよくする又はするが30%に対し、中学生ではよくする又はするが13%と大きく減少している。これは、クラブ活動や塾や習い事で家族と接する時間が短くなっていることや話題が本の話だけでなく多方面になっていることが要因と考えられる。
- ⑬ 小さい頃、家族の方から本を読んでもらいましたかとの問いでは、よく読んでもらった又は読んでもらったが67%となっており、中学生では57%と10%低くなっている。ただ、中学生では覚えていない生徒が37%となっており小学生と比べると12%高くなっていることから、それほど差はないものと考えられる。

【まとめ】

就学前の児童の読み聞かせは9割の保護者がされており、頻度に差はあるがほぼすべての家庭で読み聞かせが行われていることがわかった。
本を読まない子どもは、年齢を重ねるごとに増加する傾向にあり、中学生になるとクラブ活動や塾・習い事の時間が増えていることで、急激に本を読まない子どもが増加している。
本を読むことが嫌いかとの問いでは、小学生、中学生とも1割と少なく、読みたい本がないため読まない子が多いことから、本を読む楽しさや本を紹介すれば読む子どもが増える可能性もあることがわかった。
今後の取組としては、よく読まれている本の紹介や本を読む楽しさなどを理解させること、また本に触れ合う機会を創出するなどの取組が必要である。